

# **売木村における燃料供給体制維持 に向けた取組の経緯と今後の展開**

**2019年8月1日**

**長野県売木村**

# 売木村における燃料供給体制維持の経緯

## 1. 村内唯一のSSの閉鎖（2014年）

売木村では、「尼宮商店給油所」が、村内唯一のSSとして営業してきたが、2014年に、従業員の高齢化、地下給油タンクの使用期限を理由に、閉鎖の意思を表明した。

## 2. 住民・行政が主体となったSSの運営維持とタンク使用期限延長（2015年～）

尼宮商店の閉鎖意思を受け、2015年、村内関係者による協議の結果、売木村観光協会及び村民有志による「ガソリンスタンドを残す会」が運営を引き継ぐとともに、村による運営補助、精密油面計の設置によるタンク使用期限の延長により、営業を継続することとなった。

## 3. SSを取り巻く環境の変化と現状の運営形態の限界

2015年以降、SSは「残す会」により営業が継続され、村民の一定の利用があるものの、販売量は年間330KL程度（重油を除く）で、今後もさらなる人口減少が見通される中、SS単体での自立的な経営は難しく、村からの補助金で運営が維持できている状況となっている。

また、「残す会」スタッフの高齢化やスタッフ不足の顕在化が進み、村の財政も財政力指数は0.11、実質収支比率は▲10.8%と厳しさを増しているなか、延命によるタンク使用期限（2023年）が近づいてきており、現状の運営体制での維持は難しくなっている。

## 4. 新たな燃料供給体制維持方策の構築（2018年）

こうした現状を踏まえ、売木村では、2018年度に、経済産業省の補助金を活用してSS過疎地対策計画を策定し、以下の方針のもと、SS維持に向けた計画を位置付けた。

- ・地下タンクに代わる、ローコストなタンク（地上タンク）の導入
- ・従業員不足を補うための、周辺販売施設スタッフの兼業・兼務によるSS運営
- ・これらによる、（村からの援助を前提としない、）自立的な運営（ローコスト運営）の実現

## 売木村における燃料供給体制維持の経緯と今後の展開（まとめ）

（民間事業者がSS閉鎖の意思を示したことを受け、）

**村民有志、公的支援による、「オール売木」の体制により、燃料供給体制を維持**

（しかしながら、人口減少、高齢化、スタッフの高齢化、財政悪化等が進み、）

**現在の体制での燃料供給体制も維持に限界を迎えつつある状況**

（今後、さらなる人口減少、需要減が進む中でも、地域の燃料供給体制が維持できるよう、）

**規制緩和を前提とした、より効率的なローコストSS化による燃料維持体制の構築が必要**

## 【参考】売木村における燃料供給体制維持に関する事柄の経過

| 年月       | 事柄                                                                         | 備考                                              |
|----------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 2014年3月  | 村内唯一のSS（尼宮商店運営）がガソリン・軽油の販売を終了し、今後閉鎖する意思を表明                                 | ・地下給油タンクの使用期限：2014年12月まで<br>・給油スタッフ1名：年齢76歳（当時） |
|          | 売木村観光協会が主体となり、村民有志での「ガソリンスタンドを残す会」を発足。SS存続方法に関し協議を開始。                      |                                                 |
| 2014年6月  | 売木村観光協会バックアップの下、ガソリン・軽油の販売を再開。                                             |                                                 |
| 2014年10月 | 売木村観光協会にてタンクの延命措置を行う方針（精密油面計設置）で合意。<br>経済産業省「給油所地下タンク漏えい防止緊急対策補助事業補助金」を申請。 |                                                 |
| 2014年12月 | 補助金承認                                                                      |                                                 |
| 2015年2月  | 精密油面計設置<br>（8年間（2023年2月まで）のタンク利用が可能）                                       |                                                 |
| 2015年6月  | 尼宮商店が廃業。翌月にスタンド運営を観光協会・残す会に移行し、新体制で運営を開始。                                  | 「残す会」給油スタッフ1名：年齢67歳（当時）                         |
| 2018年3月  | 売木村観光協会の活動が終了、翌月より主業務を残す会へ引き継ぎ。運営資金面は売木村からも援助。                             |                                                 |
| 2019年2月  | 売木村SS過疎対策計画策定                                                              |                                                 |

# 【参考】売木村の人口、財政状況、SS利用状況

## ○人口

- 売木村の人口は、1980年の828人をピークに減少を続けており、2015年には575人となっている。
- 住民基本台帳人口から、直近年次の人口増減を見ると、H26～H30の4年間で65人、－10.5%の減少となっている。
- 高齢化率は、平成30年で45.7%に上っている。
- このままの趨勢で人口減少が続く場合、2030年で423人、2040年には355人となり、現在の6割程度まで減少すると推計されている。

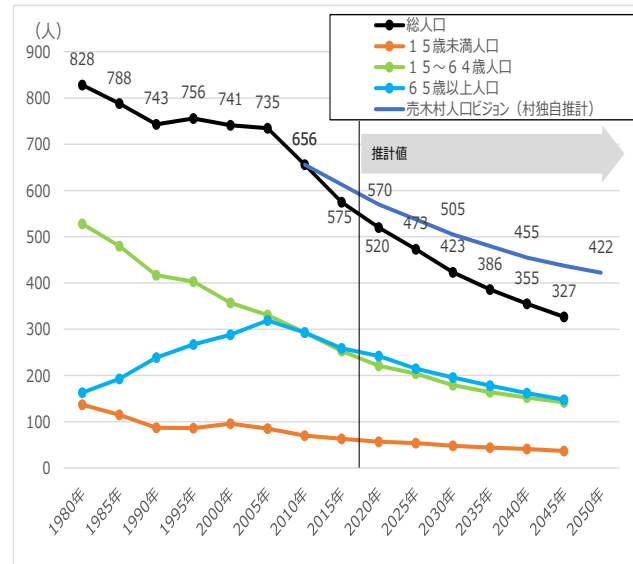


図 売木村の人口推移と将来推計人口

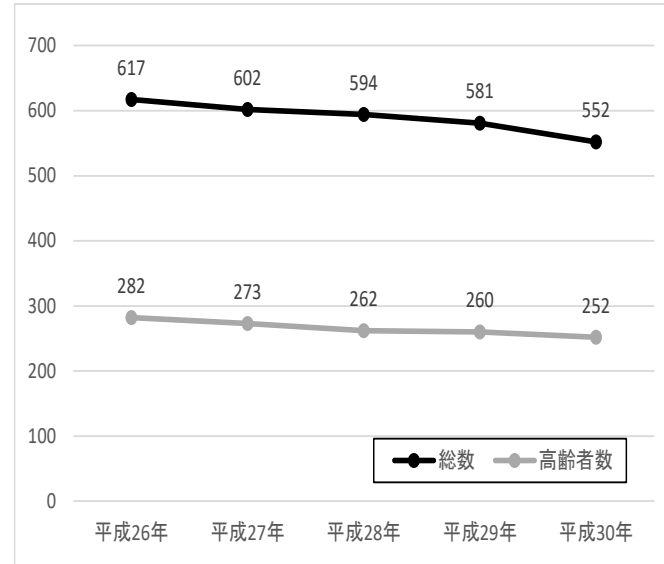


図 直近年の人口推移（住民基本台帳人口）

## ○村の財政

- 売木村の平成29年度の財政力指数は、0.11で、長野県内77市町村中、2番目に低い値となっている。
- 平成29年度決算では実質収支比率がマイナスに転じている。

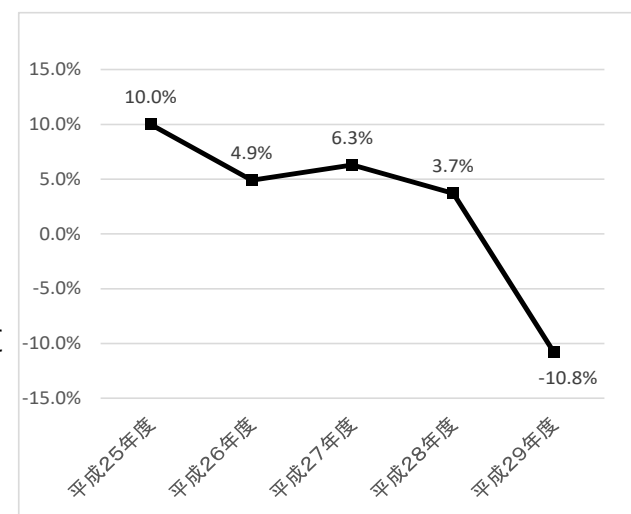


図 売木村の実質収支比率

## ○うるぎSSの販売量の推移

- 人口が減少する中でも、うるぎSSの販売量はわずかながら増加している。（村民が、村内SSを積極的に利用するようになった）

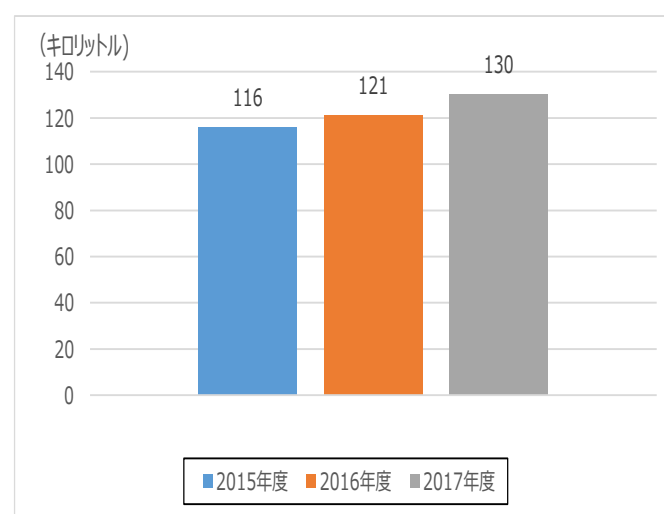


図 うるぎSSのレギュラーガソリン販売量の推移